

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人
印刷所：聖隷サービス(有)
定 価：一部 30円

2011年1月20日
第 333 号

新しい福祉への指標

関係論にたつ福祉実践

理事長 稲松 義人

新年を迎えて間もない1月7日から8日にかけて、三方原の教会を会場に、キリスト教障がい者福祉研修会が開催された。これは日本キリスト教社会事業同盟の主催する研修会で、第1回はつばき静岡を会場として開催され、岩手県、神戸市と引き継がれ、今回が第4回目となる。今回はテーマを「小さい者の一人とは誰のことか？」とし、主題講演は名古屋にあるNPO法人愛実の会の理事長として重い障がいのある人たちの支援に携わっておられる、島しづ子牧師にお願いした。また、それに続くプログラムで、小羊学園の創立者、故山浦俊治氏が19年前に出演されたテレビ番組「こころの時代」この子らの問いかけ」のDVDをNHKサービスセンターからお借りして参加者全員で視聴した。

山浦先生は番組の中で、担当アナウンサーのインタビューに答えて、著書「この子らは光栄を異にす」の中でも述べておられる意味論から関係論へという自らの福祉理念を語っておられる。これまでも創立者の思いを心に留めながら過ごしてきたつもりであるが、今回DVDの中で山浦先生自身の語りかけを聞くことができ、改めて小羊学園の拠って立つべき実践の理念がここにあるのだという思いを強くした。

山浦先生は、障がいが重くリハビリテーションの成果を感じとれないような人たちの存在は「価値論」では説明できない。それは「意味論」でなければ論じきれないと言われる。そして「意味論」が観念的な議論に終わってしまわないためには、「関係論」の中で位置付けられなければならないと主張される。障がいの重い人たちの存在の意味を実感することができると、その人との出会いにその意味を見出すことができる人、つまり日々その人の命と向き合っている人なのだろう。ことではないかと思った。

私たちはいつも、支援を必要とする人たちにどんな支援ができるか、支援の対象となる人がどんな生活ができるかという視点に立って努力しているよな気がする。そのことも勿論大切なことだが、障がいが重くその成果をなかなか感じることはできないような人を対象にする支援は、目に見える成果に価値を見出そうとするだけでは、支援する喜びを継続して持ち続けることが難しいような気がする。障がいの重い人たちの存在を肯定的にとらえ、その人を支援することの喜びを実感するためには、その人との間に新たな関係性を発見することが求められる、ということではないかと思う。

支援される対象者に変化がないと思われても、両者の関係が変わっていくことは十分にある。関わりをもつ者が変えられていくような支援、両者の関係性が変えられていくような実践、それは支援する者自身が関わりの中から、新しい生き方に踏み出していくことを意味する。それを感ずる人たちにとつては、その出会いはかけがえのないものとなるに違いない。

島先生が主題講演の中で紹介してくださったマザーテレサの「大切なのは私とあなたが変わることで」という言葉とも通じると思った。

直接福祉に関わる私たちだけではなく、多くの人が社会福祉の進展のために努力しているだろう。しかし、「閉塞感に満ちた」と評される今の時代、目に見える生活を改善していく道は遠いような気がする。しかし、私たち自身が新しい生き方へと導かれていくよな福祉実践、それは福祉従事者とされる一部の人たちに限ったことではなく、この社会に生きるすべての人たちに示された新しい福祉(さいわい)への指標となりはしないだろうか。

これらのことを覚えつつ、小羊学園の実践の輪の中に、多くの人たちが加わって下さることを求めていきたい。特にこれから人生に踏み出そうとする若い人たちがそのことに志をもって私たちの同労者になってくださることを心から願っている。

イエスさまのご降誕を祝して

今年も法人内の各施設ではクリスマスをお祝いして、
 礼拝・祝会が行なわれました。今回は、入所部門の3
 事業所で行なわれたクリスマス会の様子を紹介します。

三方原スクエア

山崎 陽司

小羊学園は1966年（昭和41年）
 に創設されて以来毎年クリスマスをお祝いして大
 切に守ってきました。三方原スクエア
 が出来てから3回目のクリスマスです。
 神様が、子どもたちや職員、そして応
 援して下さる方々一人一人を愛して
 くださっていることへの感謝と私たち
 の救い主としてお与えくださったイエ



ス様のお誕生を心からお祝いする喜び
 のクリスマスです。

今年も国際ソロプチミスト浜松の方々
 をはじめ多くの方々がお越しくださり、
 総勢150名位で狭い会場はいっぱい
 になりました。以前働いていた職員が、
 ご自分の子どもを連れて訪れてくれるの
 も小羊学園ならではだと思います。
 礼拝では聖隷三方原病院のチャプレン
 である原田裕子先生が優しく力強く
 お話をしてくださいました。捧げられ
 た献金は、日本キリスト教社会事業同

盟に送りました。きっと今一番必要な
 社会福祉の働きのために使っていただ
 けだと思います。

祝会では「そよかせ」さんによるブ
 ラクシアターが披露され、とても静
 かな素敵なたしを過ごすことができ
 ました。食事はそれぞれのユニットに
 戻り保護者の方と一緒にとりました。
 そしていよいよサンタクロースさんか
 らのプレゼントです。子どもたちが今
 か今かと待っているユニットを一つひ
 とつめぐりながら手渡されたプレゼン
 トに子どもたちは大喜び。聖隷クリス
 トファー大学の学生さんたちが寒い中
 お手伝いしてくれました。ありがと
 うございます。

皆が一つになってクリスマスの喜び
 に満たされたことを、感謝いたします。

支援センターわかぎ

渥美 雅世

支援センターわかぎではクリスマス

礼拝・祝会を17日に行いました。一週
 間早いお祝いですが皆さんの気分はすっ
 かりクリスマスです。昼食はレストラ
 ンでのコース料理のように、職員がウ
 エイターに扮し、一品一品温かい料理
 を運んでくれゆっくりとクリスマス料
 理を楽しみました。クリスマスランチ
 のあとは礼拝、浜北教会の佐伯恒道牧
 師が来てお話をして下さいました。い
 つもは賑やかな皆さんも気分が違うの



か静かに牧師さんを見つめる目が印象
 的でした。

礼拝後の祝会は毎年恒例の職員バン
 ドの演奏から始まります。旧職員もバ
 ンドに参加してくれ、皆さんと一緒に
 歌って踊って大盛り上がりです。盛り
 上がった後は新人職員のハンドベル演
 奏、スクリーンを使っての絵本の読み
 聞かせと盛りだくさんの内容でみなさ
 ん大満足な様子でした。

そしてクリスマス本番は皆さんにとっ
 ては2度目のクリスマスといった気分
 のようです。午後はグループに分かれ
 てケーキの土台にデコレーションをし、
 オリジナルのクリスマスケーキを作り
 頂きました。自分達で作るケーキは不
 恰好だけど格別なようです。食べ終わ
 る頃になると鈴の音と共にサンタクロ
 ースがプレゼントを持って登場。その姿
 に皆さん大喜び。自分のプレゼントを



大事に抱え居室に持って棟へ帰っていききました。

今宵はクリスマススイヴ。浜北教会の佐伯牧師にご招待いただき10名の利用者さんと一緒に礼拝にいききました。神妙な面持ちで牧師さんの話を聞き、讃美歌を歌い、一緒にイエス様の誕生のお祝いをしてきました。牧師さんには、『皆さんと一緒に祝いすることが出来てとても嬉しく思っています。』と感謝のお言葉を頂き、また来年も一緒にお祝いが出来るよう、元気に過ごしていきたいと思います。

◆◆2010年クリスマス会
つばさ静岡 伊藤 大喜

12月23日、つばさ静岡で第5回目となるクリスマス会が行われました。つ



ばさは12月初めから玄関ホールに4・5メートルの巨大なツリー、各ゾーン毎に色とりどりのイルミネーションが飾られ、クリスマスムード一色になっていました。職員達は何日も前から、利用者さんや親御さん達の喜ぶ笑顔を楽しみに皆で遅くまでイベントの準備や練習をしていました。利用者さんからもプレゼントやイベントを楽しみにしている声が多く聞かれていました。

クリスマス会本番、午前中の第一部はおごそかな雰囲気の中で行われました。礼拝で讃美歌を歌い、静岡草深教会の小出牧師による「飼ひ葉おけのなかに寝ている」という説教を聴きました。第二部では楽しいクリスマス祝会となり、職員らによるハンドベル、影絵、合奏が行われました。

午後からはゾーン毎にわかれて食事

会が行われました。今年はレストランのように食事を振舞おうと嗜好をこらし、各ゾーン2〜3人の職員が白シャツに蝶ネクタイ、黒パンツ（スカート）というウエイターの格好をし、前菜を各テーブルに並べ、コース料理のようにしてみました。前菜は10種のサラダ、鮪とアボガドのタルタル、クリスマスキャッシュの3種盛り、その他バイキングではチキンとポテトの香草オーブン焼き、サーモンムースのパイ包み焼き、サフランライス、コーンポタージュ、チキンの丸焼き、プチケーキが振舞われました。利用者さん、親御さん、ゾーンの職員、事務員、厨房の職員、ボランティアさんがテーブルを囲み、楽しい雰囲気の中となりました。

食事会の後、各ゾーンの職員が考えた出し物が披露されました。かえでゾーンではサンタ救出大作戦という劇を行いました。話の内容は悪いサンタクロースに良いサンタクロースとトナカイがつかまってしまい、その良いサンタクロースとトナカイを助ける為に皆でジングルベルを歌い、きよしこの夜をハンドベルで演奏し悪いサンタクロースを倒すというお話です。無事にサンタクロースとトナカイを救出し、その後は利用者さん達にプレゼントが配られました。利用者さんも親御さんも職員も笑顔が溢れていました。その後は一年間を振り返るスライドショーが行われました。利用者さん達の行事毎の笑



顔や真剣な表情で行っている活動の様子や映し出され、こんなこともあったなあと思いがよみがえり、涙がでそうになりました。笑いあり、涙あり、そして一年の振り返りもできたクリスマス会でした。

今年のクリスマス会には学生や県立こども病院の職員の方等、総勢23人もボランティアに協力をいただきました。食事の準備や、机や椅子の片付け等たくさんある雑務をこなしていただきました。ボランティアの力がなければクリスマス会を行うことはできませんでした。善意の心ってすごいものだなあと改めて感じました。本当にありがとうございました!!



カトレア新築移転工事進む

浜北区寺島にある共同生活介護（ケアホーム）カトレアが、消防法による火災報知設備設置義務に伴い、新築移転し、現在建築作業が急ピッチで進められています。

現在のカトレアは、中古住宅を賃貸しており、建物の老朽化と賃貸物件への火災報知設備設置が難しいため、新築移転する運びとなりましたが、寺島の地で自治会やご近所の方々との関係が出来てきた折に離れることを、とても残念に思います。

新しいカトレアは、支援センターわかぎに隣接した場所に建築中で、2月末には建物本体が完成し、1ヶ月間の引越し作業を経て4月より生活を開始します。



支援センターわかぎ 23年4月より新体系へ移行

障害者自立支援法に基づく新体系移行期間が24年3月までですが、支援センターわかぎは23年4月から新体系移行することになりました。

移行に伴い、入所定員を50名から40名に減員し（現員45名）、障害者支援施設として入所支援+生活介護で事業運営をいたします。減員する中で、5名の方は居住の場をケアホームに移して新たな生活が始まります。

「小さい者の一人とは誰のことか」学びのとき

1月7日（金）～8日（土）日本キリスト教社会事業同盟主催「第4回キリスト教障がい者福祉研修会」が遠州栄光教会三方原礼拝堂及び聖隷クリストファー大学で行なわれ、法人職員8名が参加しました。この研修会には、キリスト教を礎に障がい福祉事業を展開している法人の管理者や支援員が集い、今回の主題「小さい者の一人とは誰のことか」について、学びの機会を与えられました。

初日は、NPO法人愛実の会理事長島しづ子氏の主題講演をお聞かせ頂き、その後、故山浦俊治前理事長が生前NHKテレビに出演された「この子からのメッセージ」を鑑賞しました。2日目は「ともに生きること、仕えること」と題したパネルディスカッションが行なわれ、三方原スクエア支援部長の出水巖生氏が自らの経験を基に発表しました。



期間ではありましたが、自らを振り返る中で障がい福祉のあり方を問い直す良い機会を与えられ、感謝します。

「重症心身障害児者の医療連携」勉強会の準備会が開催されました。

県内の重症心身障害児者医療にかかわる医師・MSWなど20数名が一堂に会し、NICUからの退院の経過、中部地域の在宅支援の状況、一般病院での短期入所受け入れ試行結果などが報告され、参加者による熱心な意見交換がなされました。会にはオブザーバーとして県の福祉担当者も参加しました。

今後、年に1～2回継続して研究会を開催することが確認され、つばさ静岡は事務局として会の運営に協力することになります。重症児者の医療連携が進んでいくことに微力を尽くします。

小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

12月受付分 2,484,301円 (192件)
累 計 5,733,653円 (431件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415

りそな銀行浜松支店 (普通) 040005

静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）

三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

先日の第4回キリスト教障がい者福祉研修会に参加をしました。教会生活からしばらく足が遠のいている私は、些かの戸惑いと不安を覚えながら臨むことになりましたが、その思いは安に払拭されました。教会とはそういう場所なのでしょう。

研修内で、故山浦前理事長のテレビ出演のDVDを鑑賞しました。過去にも拝見する機会がありました。久しぶりに観た約20年前の山浦先生の一言一句が、心に響き、私たちに問いかけているかのように感じるのでした。

今朝は浜松にしては異例の大雪で交通網がマヒ状態でした。しばらくは身にしみる寒さが続きそうです。どうぞお身体ご自愛下さい。